

# 県立病院ビジョン(案)

第1回 県立病院ビジョン検討委員会	資料2
令和3年1月27日	

県立病院が10年後(令和14年3月)までに次のような姿になっていることを目指して、病院事業局職員は一丸となって取り組んでいきます。

分野	ビジョン見出し	ビジョン	【参考】作業部会員から提案のあったビジョン(案)
1 県立病院として必要な医療の提供及び充実	(1)中部病院と南部医療センター・こども医療センターの医療機能の集約による医療の充実	○中部病院と南部医療センター・こども医療センターは、重複している機能の整理や地域の医療機関との役割分担により機能集約が図られた結果、県全体のセンター的な機能が向上するなど高度急性期医療が充実し、医療の質の向上や診療単価及び入院患者の増加につながっている。	①中部・センターの機能が整理され重複、無駄がなくなりメリハリがついている。 ②高度急性期医療が充実し診療単価や入院患者が増えている。 ③地域の医療機関との役割分担により県立病院の機能集約が図られ県全体のセンター的な機能が向上している。 ④がん診療に関する県立病院間の機能重複が整理され、重点化した病院の関連する職種数や職員数が増加し、がん診療が充実している。 ⑤医療従事者(小児総合診療科、総合診療科、新生児科、家庭医、緩和医療に関わる医療者など)が増えている。 ⑥救命率、治癒率が向上している。 ⑦外来部門の看護師が増加し、外来機能が充実している。 ⑧手術数(緊急手術数)が増えている。 ⑨周産期の紹介率が高まっている。 ⑩放射線治療件数が増加している。 ⑪受けられる高度・専門医療の種類が増えている。 ⑫難病、がん患者の支援システムで働く人が増えている。 ⑬死亡率、周産期死亡率が低下している。 ⑭高度医療が提供できるようになっている。 ⑮再入院率が低下している。
	(2)離島の県立病院及び診療所の医療体制の向上	○離島の県立病院及び診療所では、IT技術等の活用による遠隔医療の拡大や、救急医療体制の整備などにより対応できる医療の幅が広がり、離島と本島との医療格差が縮小している。	①ITや5Gの活用により離島と本島との医療格差が解消している。 ②離島の県立病院の医療の幅が広がっている。 ③離島診療所における遠隔医療の利用が拡大している。 ④先島地区における救命救急センターの設置が進んでいる。
	(3)琉球大学病院や県内外の病院との人事交流及び連携の強化	○琉球大学病院との人事交流をはじめ県内外の医療機関との連携が強化され、医療の提供が充実している。	①人事交流など大学との連携が強化され、医療提供が充実している。 ②県内外の人材確保ネットワークが増加している。 ③各県立病院及び県内外の病院との連携が拡大している。
	(4)北部地域の医療体制の充実	○北部病院における医師確保の取組や北部地区医師会病院との連携等により、北部地域の医療の充実が図られている。また、公立北部医療センター設置後は、同センターと県立病院の医療人材の交流や連携が進んでいる。	①県立病院と公立北部医療センターの医療人材の交流が進んでいる。
	(5)精和病院の医療機能向上及び医療環境の改善	○精和病院では、身体精神合併患者など多様化した精神医療のニーズに対応し、県立の精神科病院として必要な医療を担う環境が整備されている。	①精和病院について、改築により老朽した設備等が改善され、患者の高齢化に伴う身体精神合併症患者の増など多様化した精神医療のニーズに対応し、県立の精神科病院として必要な医療を担う環境が整備されている。
	(6)災害時の医療や急患搬送体制の充実	○災害時の医療提供や円滑な急患搬送に必要な体制の整備が図られている。	①災害時に備え、人材育成のほか、備蓄やヘリポートなどの体制も整備されている。 ②救急搬送用ヘリポートがある県立病院が増加している。
	(7)感染症対応力の強化	○新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、新興・再興感染症の発生に備え、感染拡大の状況に応じ対応できる施設・設備や体制が整備されている。	(直接関連する提案なし)
	(8)地域と連携した在宅医療患者を支える体制の整備等	○県立病院では、地域と連携し、在宅で医療を受ける患者を支える体制や、認知症早期鑑別診断ができる体制が整備され、長期入院患者の減少にもつながっている。	①病院完結の医療が見直され、県立病院の地域へのアプローチが増加し、患者が在宅で医療を受けることができる体制が整えられている。 ②地域との連携強化により長期入院患者が減っている。 ③認知症早期鑑別診断ができる県立病院が増加している。

分野	ビジョン見出し	ビジョン	【参考】作業部会員から提案のあったビジョン(案)
2 県民・患者の視点に立った医療の提供	(1)診療情報の共有及び患者満足度の向上	○患者へのより良い医療提供の観点から、病院間や患者と診療情報を共有する新たな仕組みが導入されるとともに、病院の心地よい環境(アメニティ)の整備や待ち時間の減少などにより患者満足度が向上している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観葉植物があり、リラックスでき、待ち時間も忘れるようなアメニティの充実が図られている。</li> <li>②県立病院間で患者IDの統一が図られ、どの県立病院を受診しても情報が一貫して見られるようになる。</li> <li>③多くの施設と情報連携ができています。</li> <li>④患者からのクレームが減っている。</li> <li>⑤待ち時間が減少している。(呼び出し方法や待ち時間の活用方法検討)</li> <li>⑥県民の健康増進意識が向上し、病院(選択)の意思決定ができるようになっている。</li> <li>⑦電子カルテの統一又は離島の県立病院のカルテが本島の県立病院でも見ることができるよう仕組みが構築されている。</li> <li>⑧患者対応が良くなり苦情が減少している。</li> </ul>
	(2)患者の状態に応じて必要な医療が受けられる体制の整備	○離島や北部地域においても、患者が、原則、圏域内において必要な医療を受けることができている。また、高度な医療を行う必要がある場合などは、本島の病院で治療を受けやすい体制が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①離島の患者が本島に来て高度、高難度の手術、がんの手術、神経の手術などの治療を受けやすい体制(県で宿泊施設を確保等)が整備されている。</li> <li>②救急搬送応需率が向上している。</li> <li>③在宅医療、地域医療、外来機能が充実している。</li> <li>④離島や北部地域において、圏域内で完結できる医療が増え、他の医療圏への患者の流出が減っている。</li> </ul> <p>【1-(6)-②再掲】急患搬送用ヘリポートがある県立病院が増加している。</p>
	(3)外国人患者の受入体制の充実	○外国人観光客が急病やケガで県立病院を受診する際には、多言語に対応できる職員がいるなど、安心して医療を受けられる体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①複数の言語が話せる職員がいる。</li> </ul>

分野	ビジョン見出し	ビジョン	【参考】作業部会員から提案のあったビジョン(案)
3 人材の確保・育成及び生き生きと働ける職場づくりの推進	(1)臨床研修医の継続率向上による専攻医の増加	○医師の臨床研修、専門研修について、各県立病院で研修環境の改善が図られたほか、琉球大学病院との連携により症例数や経験できることが増加し、医師の様々なニーズに応えられる環境が整うことにより、臨床研修医の継続率が高まり専攻医が増加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研修医の様々なニーズに応えられる研修スタイルが構築されている。</li> <li>②臨床研修医の継続率が高まり専攻医が増加している。</li> <li>③症例数や経験できる場面が増え、魅力ある人材が集り、残ってくれる組織になっている。</li> <li>④研修医の研修環境が改善され、県立病院間で教育ができるようになっている。</li> <li>⑤琉球大学病院と連携した医師の臨床研修、専門研修により人材の流出が減少している。</li> <li>⑥琉球大学病院との連携が強化され、研修医が増加している。</li> <li>⑦初期研修医のマッチングにおいて、中間公表時点の第1希望者数が増えている。</li> <li>⑧症例数(オンライン診療症例数、成人移行症例数含む)が増えている。</li> <li>⑨被研修者数が増えている。</li> <li>⑩研修脱落者が減っている。</li> <li>⑪研修の参加率が増えている。</li> <li>⑫後期研修医が増えている。</li> </ul>
	(2)離島の県立病院を支える人材の育成・確保	○研修システムの充実により離島医療の魅力や関心が高まるとともに、離島勤務がキャリアアップにつながるなどインセンティブが構築されている。その結果、離島の県立病院に勤務する専攻医の育成や、専攻医が県立病院に残ることができる環境が整備されているほか、全ての職種において離島の県立病院に長期間勤務する職員が増加するなど、離島の県立病院を支える人材の確保につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①離島医療の魅力・関心を高める研修システムが充実し、離島勤務のインセンティブが構築されている。</li> <li>②人材育成支援センターや臨床研究支援センターの整備により、キャリア形成と教育の両立が図られ、離島勤務がキャリアアップにつながる仕組みが構築されるとともに、職員の資格が有効に活用され、意向が尊重される組織になっている。</li> <li>③離島の県立病院で勤務する専攻医の育成やその専攻医が県立病院に残ることができる環境が整備されている。</li> <li>④離島の県立病院で持続的な医療人材の確保ができています。</li> <li>⑤全ての職種において離島の県立病院に長期間勤務している職員が増えている。</li> <li>⑥離島診療所の医師、看護師が継続的に配置され、診療所の利用率が向上している。</li> </ul>
	(3)人材育成とキャリア形成支援の充実	○人材育成や臨床研究を総合的に支援する体制や、中堅医師が先進医療を学ぶことを支援する体制などが整備されるとともに、資格や専門性が有効に活用される仕組みの構築や人材育成を担う職員に対する評価など、キャリア形成支援についても充実している。その結果、魅力的な職場環境が形成され、就職希望者の増加及び職員の定着につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①臨床研修を終えた中堅医師が高度な先進医療を学ぶことができる専門施設が整備されている。</li> <li>②スペシャリストの計画的な活用が図られている。</li> <li>③人材育成を担う職員への評価が適切に行われ、教えたいことを教えられる環境ができ、人材の定着が図られている。</li> <li>④人材育成のためのプログラム数が増えている。</li> <li>⑤医療従事者育成のための短期留学や研究発表の機会が増えている。</li> <li>⑥継続して県立病院で働く医療従事者の人数が、リターン組も含め増えている。</li> <li>⑦魅力的な職場づくりにより、正職員、会計年度任用職員ともに就職希望者が増えている。</li> <li>⑧離職者や療養に伴う休職者数が減っている。</li> <li>⑨医療従事者からのクレームが減っている。</li> <li>⑩コメディカルの業務の範囲や数が拡大している。</li> <li>⑪キャリアビジョンが活かされた転職ができています。</li> <li>⑫離職者が減っている。</li> </ul> <p>【3-(2)-②再掲】人材育成支援センターや臨床研究支援センターの整備により、キャリア形成と教育の両立が図られ、離島勤務がキャリアアップにつながる仕組みが構築されるとともに、職員の資格が有効に活用され、意向が尊重される組織になっている。</p>
	(4)働き方改革への対応	○ITの活用等による事務の効率化や、職種を超えたコミュニケーションやディスカッションの増加、勤務体制の見直し等により職員が働きやすい職場になっており、時間外勤務や離職の減少及び医療の安全性の向上にもつながっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の笑顔とコミュニケーションが飛び交う職場になっており、報告事項中心の会議が減り、テーマを絞ったディスカッションが増加している。</li> <li>②ITを活用した働き方改革(AIが口頭で観察したことを記録、ドクターの指示を書いてくれる。待合室の患者の問い合わせにAIが対応等)が進んでいる。</li> <li>③時間外勤務が減少し子育て中の職員も働きやすい病院になっている。</li> <li>④職員の満足度が高まり離職率が低下している。</li> <li>⑤ライフステージに合った勤務が可能となることにより、離職や時間外勤務が減っている。</li> <li>⑥紹介状などの事務手続きが減っている。</li> <li>⑦他の施設との人事交流が増えている。</li> <li>⑧高齢の職員の当直回数が減っている。</li> <li>⑨医師の負担が軽減されている。</li> <li>⑩医療事故が減っている。</li> <li>⑪医療従事者の疲弊が減っている。</li> </ul>

分野	ビジョン見出し	ビジョン	【参考】作業部会員から提案のあったビジョン(案)
4 安定した経営及び適切な投資	(1)収益向上等による債務の解消及び投資資金の確保	○収益の向上、経費の節減、未収金の減少等により安定的に経常黒字を達成し、債務が減少しており、必要な施設・機器等の投資に充てる資金が確保されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①収益や経常利益が増加し、赤字や借入金、繰入金は減少し、高度最新の機器の整備ができるようになる。</li> <li>②AIの活用により高額コメントや加算の取りこぼしが減少している。</li> <li>③重点的な投資によりリターンが増加している。</li> <li>④症例数が増えている。</li> <li>⑤医療収益が増えている。</li> <li>⑥安定的な経常黒字の達成による預金が増加している。</li> <li>⑦経費、赤字が減っている。</li> <li>⑧借入金が減少している。</li> <li>⑨施設・資機材・薬品が増えている。</li> <li>⑩破棄される資材が減っている。</li> <li>⑪未収金が減少している。</li> <li>⑫累積債務が減っている。</li> </ul>
	(2)病院の経営体制の強化	○リーダーシップやマネジメント能力を発揮できる人材や、診療報酬制度に精通した職員が増え、病院の経営体制が強化されている。また、全ての職員が経営に対する意識を持ち、各セクションごとに達成目標に向けた取組を行うなど、経営改善に対するモチベーションの高い組織になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①リーダーシップ・マネジメント能力が発揮できる人材が増えている。</li> <li>②各セクションに達成目標があり収益に貢献できている。</li> <li>③診療報酬に詳しい医師や事務職員が増加している。</li> </ul>
	(3)電子カルテシステムや医療機器等の統一化	○県立病院間で電子カルテシステムや医療機器、資機材が統一されており、業務効率化及びコスト削減につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①県立病院間で医療機器、機材(輸液ライン、注射等)、システム(電子カルテ)の統一化が進んでいる。</li> <li>②県立病院間で物品、システム等が統一されている。</li> </ul>